

アカゲラ通信



2024年、初日の出、旭山記念公園

2024（令和6）年、初日の出を拝むことができました。

6時30分、日の出30分以上前には既に駐車場が満車。

上空は雲に覆われていましたが、太陽が昇る方角の地平線は雲が切れ、初日の出を待つ人の期待感も高まっているようでした。

また、雲のおかげで朝焼けもとてもきれいでした。

7時6分、いよいよ初日の出の時刻・・・太陽が昇ってきた！

期待通りの初日の出に、展望台ではあちこちから「めちゃきれい」「すごい」「感動的」といった主に若者の声が聞こえてきました。

初日の出の人出は400人以上、駐車場には最大76台駐車と、ここ数年で最も人出が多く、展望台は賑わっていました。

旭山記念公園でもう20年以上元旦を迎えていますが、ここ数年で大きく変わったことが3つあります。

①初日の出の方角をほとんどの人が分かっている

かつては「太陽は東から昇る」という漠然とした知識により、東の方角=札幌中心部方向を見て待っている人が多かったものです。

初日の出は南東から昇ります。かつては太陽が見えてから「そっちだったんだ」という声が結構聞かれていましたが、今では多くの人が日の出前から南東方向を見ています。

スマートフォンの普及により、すぐに簡単に必要な情報を調べられるようになったからでしょう。

②藻岩山登山者が増えた

かつては初日の出後の7時45分頃までに多くの車が退場、駐車場には数台残り、8時過ぎてちらほらと車が来るといった流れでした。

しかし今は、藻岩山に登って初日の出を拝む人が増えたようで、8時の段階で駐車場には10台以上が残っています。

元日だけは午前5時に駐車場開場しますが、それから登って藻岩山頂上で初日の出を拝む人も増えたのでしょう。

③歩いて来る人が増えた

今年の駐車車両は76両、単純計算で1台平均4人乗っていたとしても約300人。との100人以上は徒歩で来ることになります。

今年は歩いて来る人がとりわけ多かった印象ですが、駐車場がすぐに満車になることもある程度知れ渡ってきたものと考えられます。

それでも初日の出を拝みたい人も増えているのかもしれません。

なお、今年の元日はまだ積雪が少なく、第2駐車場も一部開場しましたが、来年以降もそうとは限らないので、ご承知おきください。

旭山記念公園、本年もよろしくお願ひします。



6時48分 日の出前



7時6分 日の出時刻



7時6分



7時7分



7時8分

「旭山樹木冬芽と葉痕図鑑」



「旭山樹木冬芽と葉痕図鑑」が出来ました。

旭山記念公園で見られる55種類の樹木（植栽および外来種含む）の冬芽と葉痕の拡大写真で紹介したミニ図鑑です。

散策の際にこれを手に樹木観察もいいですが、冬芽と葉痕の小さな写真集として眺めてどもなかなか面白いです。

森の家にて販売中です。（ラミネートなし 100円／あり 150円）

旭山野鳥メモ 57 オオマシコ

オオマシコ Palla's Rosefinch *Carpodacus roseus* スズメ目アトリ科
数少ない冬鳥もしくは旅鳥。シベリアなどユーラシア大陸北東部で繁殖。道内ではほぼ毎年観察されるが、元々個体数が少ないらしい。

旭山では何年かに一度現れる程度で、春と秋(冬)に記録がある。

2013年4月には1週間ほど滞在していた。スズメより一回り大きい。

今冬 2023年12月26日に3羽が旭山を訪れたが♀(写真)2羽と♂幼鳥と思われる1羽で♂成鳥は見られなかった。「友愛の小径」付近の開けた所で午前中の短い間採餌してどこかに飛んで行き、以降確かな観察情報はない。インスタグラムでは道内からちらほらと情報がある。

イネ科、キク科、タデ科等の草本の種子を好んで食べるが、旭山に今冬現れた時も主にススキの穂に寄つて採餌していた。森林の中よりは林縁、もしくは木がまばらにある草地で生活するのであろう。

「マシコ」は漢字で「猿子」、赤ら顔が猿のようだという名前の由来。「益子焼」とは関係はない。

英名 "Palla's Rosefinch"、赤い薔薇に喩えられ、学名の種小名(2つ目の小文字で始まる単語)にも "rose" が使われている。他にベニマシコは "Long Tailed Rosefinch"。

数が少ない、稀な野鳥が見られると嬉しいものだが、オオマシコはその色合いと人目に付きやすい場所で活動するため、今後もたまに見られるだろう。しかしなぜ個体数が少ないのか、興味深いところではある。



2024年1月の野鳥トピックス

- シマエナガ：12月後半から出現頻度が落ちています。例年1月中旬には観察機会が増えますが、今年はどうなるでしょうか
- イスカ：旭山では1羽から数羽が時々見られるだけです
- ウソ：声は日に何度も聞かれ、高い位置を飛びながら鳴くことが多いですが、時々近くで見られる機会があります
亜種アカウソ(右写真上)の観察情報もあります
- ベニヒワ：今冬は旭山ではほとんど見られていません
- ツグミ：12月に入りあまり見られなくなりました
- ヒレンジャク：30羽前後見られる日もありますが少ないです
- キレンジャク：ヒレンジャクに混じっていることがあります
- カケス(亜種ミヤマカケス)：観察機会は多いです
- キクイタダキ：1月に入りちらほらと見られるようになりました
- キバシリ：今年は見られる機会が比較的多いです
- ミソサザイ：笹藪のある斜面で時々見られます
- クマゲラ：園内に時々やって来ますがまだ少ないです



カラ類の「初鳴き」が今冬は遅い

ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガラとゴジュウカラ(右写真)は例年12月から1月初旬に「初鳴き」が聞かれ、囁り始めます。

しかし今冬は1月10日現在「初鳴き」を記録したのはハシブトガラ(2023年12月13日)とゴジュウカラ(2024年1月10日)のみで、他の2種はまだですが、このようなことは初めて。

今冬は山の食糧が少ないと言われていますが、繁殖行動にも影響が出ているのでしょうか。

ゴジュウカラも市街地によく出てきているとのことです。

